地域のできごと

R3.2

姨捨棚田で遊休農地を再生し、再利用を図りました！

江戸時代に歌川広重によって「信濃更級田毎月鏡台山」として描かれた千曲市の姨捨の棚田は、令和２年６月に文化庁より日本遺産に認定されました。市ではこれを契機に認知度の向上や、文化面、観光面、産業面等で棚田の再振興を図り、地域活性化へつなげたい意向があります。

姨捨棚田は、地権者７割、ボランティア的な団体３割で管理されてきましたが、猫の額のような小さな田が多く、機械作業に向かず、手作業を強いられ、労働力不足等により近年は遊休田が増えていました。遊休荒廃化したままだと景観上も好ましくなく、また、一度、荒れてしまうと、雑草や雑木の除去から始めなければならず放置されがちでした。

その対応策として、手間がかからず、痩せたところでも栽培可能で、かつ地元の漬物業者への出荷等が期待できるものとして、ミョウガ、あくなしわらび、やまぶきに着目し、棚田の再利用を企画しました。

今回はモデル的に市が中心となり再生作業が行われました。除去・耕起した後にミョウガは令和元年から試験的に栽培が始め、収穫に結び付きました。令和２年 12 月には農業支援センターほか関係者が参集し、再生した田にあくなしわらび、やまぶきを植え付けました。わらびは２年後に、ふきは今年から収穫できればと期待しています。

関係者で畝をたて植付作業を行う

やまぶきの地下茎